



座光寺音頭による盆踊りの輪。8月8日の座光寺夏祭り会場にて

**復活した座光寺音頭**

今夏、埋もれていた地域の宝ものが、またひとつ甦りました。

「座光寺音頭」は大正14年8月につくられた舞踊曲です。民衆娯楽の場などで歌い継がれていましたが、昭和の大恐慌以降は忘れ去られ、昭和30年前後に商工会主催の夏祭りで歌われたのが最後でした。

数十年の時を経て、去る8月8日の夏祭り会場に、華やかな曲調が再び響きました。

麻績の里座光寺便 中秋号

平成22年10月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内)

長野県飯田市座光寺25535 TEL 0265-22-1401

2010.10 No.4  
中秋号

## ふるさとパック 秋

秋の味覚満載便  
2,000円(送料別)

「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。一度ご家庭でご利用ください。

- お申し込み先 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401)
- お申し込み締切 平成22年11月15日
- お届け時期 平成22年11月下旬



果物、野菜、野山の幸…など、座光寺の「旬」を詰め合わせてお届けします。朝晩の冷えや天竜川から昇る朝霧により、作物は一日ごとにおいしくなっています。



麻績の里・座光寺便 お知らせ板

## 笑門来福 福助人形展

12月14日～1月末

竹田扇之助記念国際操り人形館では、特別企画展「笑門来福 福助人形展」を開催します。「笑う門には福来る」という言葉がぴったりの福助人形。親指ほどの人形から高さ60センチの大きなものまで、多彩な人形たちが「福」をお届けします。皆様のお越しをお待ちしております。



### あとがき

暑かった季節も終わり、過ごしやすい季節がやってきました。刈り取りを終えた田んぼには赤とんぼ空には秋の雲、そして乾いた風が里を渡ります。

夏祭りの記事が秋に流れ込んでしまいました。来年も実施します。座光寺音頭を踊りに皆さんお出かけください。

今月に入つてからの雨と冷え込みで、今年はきのこが大発生。直売所には松茸やさまざまな雑きのこが、所狭しと並んでいます。きのこが一段落すると、りんごや柿の収穫に忙しい時期がやってきます。次号は新年号(目標?)でお会いしましょう。

### 大晦日の風物詩 除夜の竹宵

今年も麻績神社参道から境内に竹ぼんぼりを並べます。竹筒に火を灯し、除夜の鐘の音を聞きながら、新年の幸せを願います。



竹田人形館特別企画展



新らい化りんごのは場



新らい化りんごのは場  
から本格的な収穫を迎える。

「新らい化りんご」の栽培は、これから生産技術として注目されています。木が小さく作業性や生産性に優れ、何より省力化農業の実現に期待されます。

「南信州チロル会」は、新らい化りんごの栽培に取り組む座光寺地区の果樹農家が集まり結成した研究会。座光寺を新らい化りんごの大産地にしようと夢を抱いています。

## 天竜養魚場

品質最優先のアユづくりを追求し続け、釣っても食べても最高のアユだと自負しています。信州飯田の養殖アユをもっと大勢の方に体験していただきたいという気持ちで取り組んでいます。

代表:棚田 健治  
住所:飯田市座光寺5514-9  
電話:0265-23-5438



## 棚田養魚場

鯉、虹鱒を始め、くせもなく味わい深い「アルプスサーモン」の養殖にも力を入れています。おなじみの鯉の甘煮などもありますので、座光寺にお越しの際は、事前にご連絡いただければご注文に預かります。

代表:棚田 健治  
住所:飯田市座光寺5495  
電話:0265-22-6918



## 紹介します・川魚のお店

「新らい化りんご」に託す夢

## 南信州チロル会

新らい化は作業口数が少ないことから、収穫の時季が従来の木に比べて早まります。「ここ(座光寺周辺)はりんご栽培の南限。だから日本で一番早くりんごが出荷できる土地になりますよ」と、会の代表である松村秀俊さんは言います。夏から秋にかけてさまざまなりんごが作られる座光寺。これらがそれぞれいち早く収穫・出荷されていけば、強い市場力を發揮するでしょう。注目の新らい化りんごは、木が生長する3年後

き、情報交換や共同研究を重ねています。



七夕行列



# 座光寺夏祭り

観た。踊った。  
楽しんだ。



石段に並んだ「竹宵」



御輿をあしらった「七夕飾り」



小学生による演奏会

地域のみんながひとつになって楽しめる夏のイベントを。「座光寺夏祭り」(自治会主催)が今夏初めて行われ、会場の麻績の館・舞台校舎周辺は多くの人で賑わいました。

座光寺音頭の復活はお祭りのメインイベント。しかしその準備は予想以上に大変でした。譜面が残っていないため、曲はお年寄りの記憶が頼り。踊りの振り付けは、民の手づくりで進められました。こうして迎えた当日。各地区ごとにゴザを敷き、お酒を酌み交わす様子は、村祭りの雰囲気たっぷり。子どもたちの姿も多く、「舞台校舎に子どもが帰ってきた」と

大きな踊りの輪ができました。日が暮れて「七夕竹宵」

がスタート。復活した「座光寺音頭」に合わせて、大きな踊り

石段には、竹宵の筒が整然と並びました。日が暮れて「七夕竹宵」の灯がともると、いよいよ盆踊り

台校舎では小学生の金管楽器演奏会が行われ、麻績神社に続く

の声も挙がりました。